

『致知』社内木鶴会は  
現代の寺子屋です

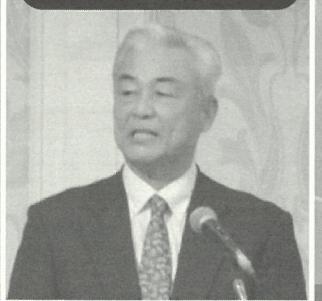
# 社員が変わる、会社が変わる!

## 静岡県社内木鶴経営者会主催の 社内木鶴説明会&藤尾秀昭講演会 in 静岡 開催報告



静岡県社内木鶴経営者会主催による「社内木鶴説明会&藤尾秀昭講演会」が、令和4年11月11日にホテルグランヒルズ静岡にて、280名の参加者を得て開催されました。第1部「社内木鶴会で我が社はこう変わった」の事例発表では、全国社内木鶴経営者会相談役の村山明子氏と活性化委員の安藤治氏のお二人が登壇。実践に基づく発表に、会場は大きな感動に包まれました。第2部「特別講演」における弊社社長・藤尾秀昭の熱のこもった講演で会場の熱気は最高潮に達し、静岡県内で「社内木鶴会」の輪が広がっていく機運が高まりました。

### 開会挨拶



静岡県社内木鶴経営者会会長  
エージェンス社長 寺田尊晃氏  
「社内木鶴会を通じて社員が見違える  
ように変わっていく光景は、私にとても大きな感動体験でした」

### 社内木鶴会の感動体験を発表いただいたお二人



全国社内木鶴経営者会相談役  
愛東運輸会長 村山明子氏  
「教育とは心に火を灯すこと!」「継続こそ力」が成功の秘訣であると学び、以来懸念に社内木鶴会を続けてまいりました」



全国社内木鶴経営者会活性化委員  
タム・タム社長 安藤治氏  
「全従業員の物心両面の幸せと会社の永続的発展に欠かせない『致知』。社内木鶴では社員一人ひとりの『心』が育まれています」

導入事例が良く分かるガイドブックはこちらからお申込みいただけます

### お問い合わせ

- 「もっと詳しい説明が聞きたい」
- 「導入を検討したい」という方は、  
お気軽にお問い合わせください。

TEL: 03-3796-2112  
FAX: 03-3796-2101  
E-mail: shanai-mokkei@chichi.co.jp  
詳しくは [社内木鶴会](#) で検索!



## 社内木鶴会で我が社は こう変わった

なかむらしんじ  
サンポーコーポレーション  
中村慎二  
社長

『致知』をテキストにした社内勉強会「社内木鶴会」。現在、1,270社を超える全国の企業で導入され、「社長と社員の思いが1つになった」「社風がよくなった」「業績が上がった」など、嬉しい声が続々寄せられています。本ページでは、「社内木鶴会」を導入し、会社を発展させた成功事例を紹介していきます。

後継者として一緒に仕事をする以上は、それ以外の姿勢も学ばなければいけない——その思いで先代（義父）と同居することを決め、会社でも自宅でも、先代の背中から経営者のあり方を吸収していました。一方、働く仲間に対しては「高志低身」の気持ちで向き合っていきました。社長になる身として絶対傲慢になつてはいけない、働く仲間と共に心を一つにして頑張つたのです。

そのような中、『致知』と出逢ったのは二〇一一年。初めて参加した幹部会議の場で、先代から「幹部社員は全員『致知』を読みなさい」と言われ、購読を始めたのです。

『致知』の学びは私を大きく変えてくれました。特に時事問題に関する記事

もともと建設関係の会社に勤めていた私が当社に入社したのは二〇〇八年、三十五歳の時でした。婚養子となつて三年ほど過ぎたある日、義父から「会社を継いでくれないか」と言われ、入社を決意したのです。

十周年の節目を迎えます。当社は義父・中村修一が一九七八年に創業し、以来、岐阜県を中心飲食関連のフランチャイズを幅広く展開してきました。二〇二三年八月に創業五十周年の節目を迎えます。

### ● 転機となつた 『致知』との出逢い

もともと建設関係の会社に勤めていた私が当社に入社したのは二〇〇八年、三十五歳の時でした。婚養子となつて三年ほど過ぎたある日、義父から「会社を継いでくれないか」と言われ、入社を決意したのです。

後継者として一緒に仕事をする以上は、それ以外の姿勢も学ばなければいけない——その思いで先代（義父）と同居することを決め、会社でも自宅でも、先代の背中から経営者のあり方を吸収していました。一方、働く仲間に対しては「高志低身」の気持ちで向き合っていきました。社長になる身として絶対傲慢になつてはいけない、働く仲間と共に心を一つにして頑張つたのです。

そのような中、『致知』と出逢ったのは二〇一一年。初めて参加した幹部会議の場で、先代から「幹部社員は全員『致知』を読みなさい」とと言われ、購読を始めたのです。

『致知』の学びは私を大きく変えてくれました。特に時事問題に関する記事

変感銘を受けました。自社にも『致知』を活用した勉強会・社内木鶴会を導入することを即決し、全社員約五十名でスタートさせました。毎月開催していますが、勤務体制の関係で三ヶ月に一度の参加を必須としました。最初は三ヶ月に一度の感想文を書く人がほとんどでしたが、回を重ねるとそれでは物足りないと、自らの関係するすべての人が幸せになることを追求していくということです。

主的に毎月店舗で行うようになり、いまではほぼ全員が毎月提出してくれるようになりました。

また、二度の大きな失敗を経験した社員は、『致知』の教えに触れる中で「会社の役に立ちたい」と気持ちが切り替わり、率先して全社の課題に取り組むなど、他の社員を導くリーダー的存在としていま活躍してくれています。

社員には時事問題など幅広い知識

に触れたことで、「いま世界はこう動いているのか」と目を開かされると共に、社員にもこうした広い視野、知識を見つけてほしいと強く願うように見つけていたのです。

社長を継いだのは、業績があまり芳しくなかった二〇一六年でした。自分なりの独自色を出しながら会社をよくしていきたいと思っていました。そこで、経営者として嬉しいことは、自分の機会を得、発表企業の体験談に大変感銘を受けました。

自社にも『致知』を活用した勉強会・社内木鶴会を導入することを即決し、全社員約五十名でスタートさせました。毎月開催していますが、勤務体制の関係で三ヶ月に一度の参加を必須としました。最初は三ヶ月に一度の感想文を書く人がほとんどでしたが、回を重ねるとそれでは物足りないと、自らの関係するすべての人が幸せになることを追求していくことです。

主的に毎月店舗で行うようになり、いまではほぼ全員が毎月提出してくれるようになりました。

また、二度の大きな失敗を経験した社員は、『致知』の教えに触れる中で「会社の役に立ちたい」と気持ちが切り替わり、率先して全社の課題に取り組むなど、他の社員を導くリーダー的存在としていま活躍してくれています。

社員には時事問題など幅広い知識

に触れたことで、「いま世界はこう動いているのか」と目を開かされると共に、社員にもこうした広い視野、知識を見つけてほしいと強く願うように見つけていたのです。

社の社名は「三方善」から来ています。自分がよければいいのではなく、社員、アルバイト、地域の方々が関係するすべての人が幸せになります。事業を追求していくことです。これからもその理念をもとに社内木鶴会を続けて全社の人間力を高め、皆様に感謝され、よりよい世の中に貢献していく企業を目指していく思いです。

### ● 企業プロフィール

社名 / 株式会社  
事業内容 / 飲食FC・害虫駆除FC業  
創業 / 昭和48年  
所在地 / 岐阜県岐阜市西荘3-10-22  
社員数 / 約48名(パート・アルバイト)  
約660名



### ● 皆が幸せになる 「三才善」を追求する

に触れたことで、「いま世界はこう動いているのか」と目を開かされると共に、社員にもこうした広い視野、知識を見つけてほしいと強く願うように見つけていたのです。

もともと建設関係の会社に勤めていた私が当社に入社したのは二〇〇八年、三十五歳の時でした。婚養子となつて三年ほど過ぎたある日、義父から「会社を継いでくれないか」と言われ、入社を決意したのです。

後継者として一緒に仕事をする以上は、それ以外の姿勢も学ばなければいけない——その思いで先代（義父）と同居することを決め、会社でも自宅でも、先代の背中から経営者のあり方を吸収していました。一方、働く仲間に対しては「高志低身」の気持ちで向き合っていきました。社長になる身として絶対傲慢になつてはいけない、働く仲間と共に心を一つにして頑張つたのです。

そのような中、『致知』と出逢ったのは二〇一一年。初めて参加した幹部会議の場で、先代から「幹部社員は全員『致知』を読みなさい」とと言われ、購読を始めたのです。

『致知』の学びは私を大きく変えてくれました。特に時事問題に関する記事